

令和6年（2024年）度行政評価シート【個表】 令和 6 年 6 月 21 日

評価対象事業		評価者	総務課担当課長 松本 広	
総務-07	事務管理事務	☒ 自治事務	主管課	総務課
		☐ 法定受託事務	関連課	行政マネジメント課
総合計画上の位置付け	分野	行財政運営		施策の方針
				行財政運営

1 事業の目的

対象	市職員等
意図	最少の経費で最大の行政サービスを提供するため。
効果	行政事務の適性な管理を行い、社会情勢の変化に即した組織の構築に努め、効率的かつ効果的な行政運営を行う。

2 令和5年(2023年)度を実施した事業の概要

組織の構築、執務室の配置など行政事務の適正な管理に係る業務を行った。

3 事業を構成する事務事業(最小事業)実績

枝番号	事務事業	実施した主な事業 (主な経費等)	指標(単位)	令和5年度		令和6年度	達成度
				指標(実績値/目標値)		指標(目標値)	
				事業費(決算/当初)(千円)		予算額(千円)	
01	機構改革事業	条例・規則改正 執務室移転		/			
				8,411	/ 9,513	180	
		財源 内訳	国県支出金	/			
			地方債	/			
			その他特定財源	/			
			一般財源	8,592	/ 9713	9,713	
		事業費の合計 (千円)		8,592	/ 9,713	9,713	
		人件費 (千円)		6,077		0	

4 この事業に関わる職員数(毎年度4月1日時点)

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
正規職員等	0.5	1.2	1.2	0.8	0	
会計年度任用職員	0.5	0	0	0	0	

5 評価結果

(1) 最小事業評価

枝番号	事務事業	指標分析の推移、 目標未達の理由	上位施策にどう寄与したか、 構成する事業としての妥当性	事業実施上の課題、改善点
01	機構改革事業	数値化に適した目標が設定できないため。	限られた職員数や財源の中で、組織の合理化を図りつつ生産性を向上させるため、組織及び執務室の変更を行った。	慢性的な執務スペースの不足に伴い、最適な組織及び執務室について常に検討する必要がある。

(2) 視点別評価

効率性	事業費の削減余地はないか	1 事業費の削減余地はない
	事業の外部化(民営化・業務委託等)はできないか	3 外部化ができる事業はない
	関連・類似する事業の統合はできないか	3 統合できる事業はない
妥当性	各事業の実施に対する市民ニーズはあるか	4 市民ニーズを計ることはなじまない
	民間によるサービスで代替できる事業はないか	3 民間によるサービスで代替できる事業はない
有効性	事業の上位施策に向けた貢献度はどうか	2 目的達成のために手段(最小事業)を改善する余地がある
公平性	受益者負担は公正・公平か	△・負担未導入 △-3 受益者が特定できないため、受益者負担を求めることができない
協働	市民等と協働して事業を展開しているか	△・協働未実施
		協働実施済の場合のパートナー

(3) 総合評価 ※最小事業評価を踏まえて、今年度以降の取組方針等を記載する

【今後の方針】 ☐ 拡充 ☐ 改善・変更 ☒ 現状維持 ☐ 縮小 ☐ 休止・廃止
社会情勢の変化や本市が直面している喫緊の課題に対応するため、関連する部局間の連携を強化するとともに、特段の必要性が生じた場合には、組織及び執務室の見直しを行う。

【参考】

◎事業実施に係る主な指標

◎事業実施に際しての指標								
指標(単位)							単位	
指標設定理由	年次	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	
	目標値							
	実績値							
	達成率							

指標(単位)								単位	
指標設定理由		年次	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	
		目標値							
		実績値							
		達成率							

◎他市比較・ベンチマーク(県内外自治体など他自治体や民間団体との比較値)

比較事項							
団体名	鎌倉市						
他市実績							

当該事業実施に伴う 他市比較に関する考え方	
--------------------------	--